

2021年11月15日
日本船主協会 企画部広報室

海運のSDGsへの取り組みを紹介 ～東京都豊島区の中学校で出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。今般、東京都豊島区千登世橋中学校において、11月6日（土）に（公財）日本海事広報協会と協力し、海運の役割や環境への対策をSDGsの目標と照らし合わせながら紹介する出前授業を行いましたので授業の様子をお知らせします。



日本の貿易量の99%以上を船が運んでいる事、衣食住に必要な物資の多くを海上輸送が担っている事を紹介。海運の重要性とともに海運が「住み続けられるまちづくり」の形成といったSDGsの達成に貢献していることを伝えました。

どのような船が主にどのような荷物を運んでいるかクイズ形式で紹介。また、フライドポテトがどこの国から、何日かけて運ばれてくるかなど、航路と共に説明しました。



後半は温室効果ガス排出量削減、海洋汚染の防止や船のリサイクル等環境課題の解決に向けた取り組みを中心に海運が取り組むSDGsについて詳しく紹介しました。

生徒からの授業の感想では、「海運が人々の暮らし、産業や経済を支える存在であることが分かった」「SDGsの達成に向け、環境に優しい海運を目指しているいろんな工夫をしていることが分かった」といった声が聞かれました。また、校長先生からも、「教員では普段教えられないことを生徒たちは学習できた」とのコメントがありました。



当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上